日本麺用小麦品種「きぬあかり」の育成と普及

吉田　朋史　氏
愛知県農業総合試験場
作物研究部作物研究室長



1　業績の概要

背景

愛知県は本州有数の小麦生産県であり、主に水田転換畑で生産を行っている。2010年頃までは「農林61号」を主に作付しており、生育期間中の湿害や、収穫時期の梅雨の影響等から、愛知県の小麦単収は全国平均に達しなかった。また、食味や外観等の麺品質が不十分であった。このような中、生産者からも実需者からも、安定多収で品質に優れる県産の日本麺用小麦品種が強く求められていた。そこで、2001年度から、「農林水産省小麦育種指定試験地」として東海地域の水田転換畑に適した早生・多収・良質で耐湿性に優れる日本麺用小麦品種の早期育成及び普及に取り組んだ。

研究内容・成果

製麺特性の良好な「きぬの波」を母、早生で耐湿性と収量性の高い「西海184号」を父として交配し、DNAマーカー選抜により、「きぬの波」の持つ生地物性を強めるグルテニンサブユニット遺伝子*Glu-B3g*の導入固定に成功した。全国で初めてDNAマーカー選抜を利用し、4種のグルテニン遺伝子を集積した小麦品種「きぬあかり」を育成した。育成の途上から愛知県内の製粉実需者と協力し、色、生地物性、食味の評価を実施し、日本麺用に適する加工特性を持つ品種とすることができた。

また、早生熟期で、耐湿性にやや優れ、既存品種に比べ単収が20%高い優れた栽培特性を持つ本品種を普及させることにより、東海地域の水田転換畑での小麦安定生産の基礎を築いた。



図１ きぬあかりの草型

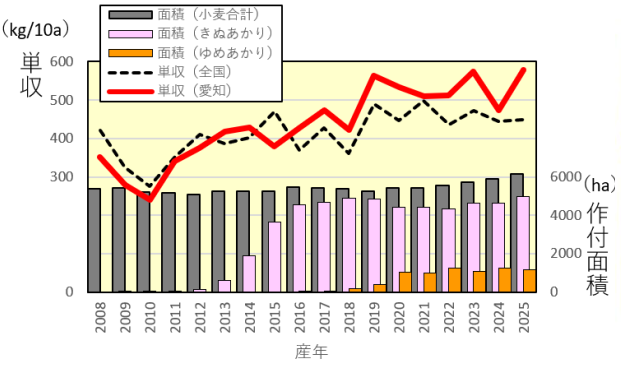


図２　単収と作付面積の推移



図３　シンボルマーク
登録商標第5667486号

普及状況

「きぬあかり」は、2010 年に愛知県の奨励品種となり2012年から一般栽培を開始した。隣県の静岡県でも2016年に奨励品種に採用され、2018年から一般栽培が開始された。現在、愛知県の小麦作付面積は約6,000haであり、「きぬあかり」導入前より10%以上増加した。「きぬあかり」は愛知県内80%の作付シェアを占め、本県育成の硬質小麦「ゆめあかり」と合わせると２品種で本県小麦栽培面積の100%に普及し、稲麦大豆を主体とする水田作経営者の経営の大黒柱となっている。

2　評価のポイント

高い能力を持つ品種育成とともに、品種に適した栽培法を開発し、合わせて普及を図ったことにより、安定生産が可能となり、迅速に生産者に受け入れられた。また、生産者や実需者が加わる麦民間流通地方連絡協議会で、変動の大きいタンパク質含量の許容値を定め、生産者、実需者ともに理解協力をえることで、小麦の評価を高め円滑かつ迅速に栽培が拡大できた。2012年の「きぬあかり」導入以降、愛知県の小麦単収は着実に増加し、2018年以降直近の8年間では平均520kg（全国平均450kg）、全国１位が６回、２位が２回となり、愛知県の小麦の収量、品質が飛躍的に向上したことは高く評価される。

【連絡先】愛知県農業総合試験場 作物研究部
（住所：〒480-1193　愛知県長久手市岩作三ケ峯１－１　TEL：0561-41-9517）